

「今」と「未来」のために、今私たちができること [目標5] ジェンダー平等を実現しよう



5 ジェンダー平等を 実現しよう



ジェンダー

生物学的性別ではなく、社会的・文化的な役割の違いによってつくられる性差

LGBTQ

レズビアン(L)、ゲイ(G)、バイセクシュアル(B)、トランスジェンダー(T)、クエスチョニング(Q)の頭文字をとった、性的少数者を表す言葉の一つ

「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現に向けた世界共通の目標「SDGs」。「今」も「未来」も幸せに暮らし続けるために、今を生きる私たちは何ができるのか。一人一人が「**自分のこと**、」として考え、身近なことから行動していくことが大切です。

世界では、女性というだけで学校に通わせてもらえなかったり、大人になる前に結婚を強いられたり、ジェンダーによるさまざまな差別が当たり前という国もあります。

日本では、性別による役割分担意識が根強く残っており、男女格差を測る「ジェンダーギャップ指数」は、156か国中120位と低く、ジェンダー平等という観点では、世界からみてもかなり遅れています。

特に政治(147位)と経済(117位)の分野で低く、女性の国会議員や管理職などの割合が低いことや、非正規雇用者の割合が高いことなどが問題となっています。

こうしたジェンダーギャップを解消し、誰もが自分らしくいきいきと活躍できる社会をつくっていくためには、一人一人が多様性を尊重し、ともに理解し合っていくことが大切です。

日常生活でできる取り組み

- 家事や子育ては家族で協力して行う

調べてみよう！

- ジェンダー平等や多様性を理解し、偏見や差別をしない

市の取り組み

第3次男女共同参画プランの推進

- 女性人材リストの登録・活用
 - 幅広い分野で活躍する女性を公募し、政策・方針決定の場での女性の参画拡大と女性活躍を促進
- 「パパママ教室」の開催
 - 出産を迎える夫婦の育児不安を解消し、夫婦が協力しながら安心して子育てができるようサポート